

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月9日現在

機関番号：44303

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520222

研究課題名（和文） 『阿娑縛抄』を中心とした天台密教次第の基礎的研究

研究課題名（英文） The fundamental study of the order of exercises in Tendai esoteric Buddhism of center on `Asaba-Sho`

研究代表者

松本 公一 (MATSUMOTO KOICHI)

池坊短期大学・文化芸術学科・教授

研究者番号：60442258

研究成果の概要（和文）：本研究は、『阿娑縛抄』写本、とくに全冊揃いで伝わっている写本の調査を中心に行い、書写年・書写者・書写した場所を中心に写本の系統整理をおこなった。写本の多くは江戸時代以後のものであったが、中世の写本が新たに数点確認できた。また、書写の系統整理により、西教寺の写本が近世の写本に大きく影響していることが判明した。また、『行用抄』という密教修法のテキストが、『阿娑縛抄』の内容と密接で、『阿娑縛抄』の内容理解を補うものであること、中世の『阿娑縛抄』の書写と同様の形がみられることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study is the research of the manuscript of Asaba-Sho. Especially, I researched the complete set of manuscript of Asaba-Sho. As a result, I bring out about the copy of year, person, place. And I bring out about the circulation of the manuscript of Asaba-Sho. They are almost the manuscript in Edo Period. But some of them are the manuscript in in the Middle Ages. The manuscript of Asaba-Sho of Saikyo-ji temple version influence the another manuscript in Edo Period. Gyo-yo-sho, the text of order of exercises in Tendai esoteric Buddhism is tied very closely to Asaba-Sho. Its content is very similar to the order of exercises in Asaba-Sho. And its aspect of transcription is very similar to Asaba-Sho.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：書誌学・文献学・中世天台聖教

1. 研究開始当初の背景

1) 中世における密教修法の研究の進展のなかで、真言宗の事相書である『覚禪抄』は中世写本の調査とそれを題材とする研究が発表されつつあったが、天台宗の『阿娑縛抄』については中世写本の少なさも手伝い、美術史

から図像に関する研究はあったが、テキストとしての研究はほとんどされていなかった。

(2) 現在みることのできる活字本は、誤りと考えられる翻刻が少なくない。その誤りは中世の写本で訂正できることが多い。よって現

存の中世写本と対校する必要があるが、その中世写本についても十分に把握されていないのが現状である。

(3)『行用抄』という中世天台宗の修法のテキストがあるが、この書物は、その性格についてはまだ十分に解明されておらず、写本の調査・紹介もほとんどなされていない。滋賀成菩提院と愛知密蔵院のものについては調査を済ませている。

(4)密教修法の実態については、六字河臨法などの特徴的な修法の個別研究はおこなわれているが、中世における総合的な修法研究は、当然ながら十分にはすすめられていない。中世社会における修法の実態研究について、それを鳥瞰するものはあっても、修法の実態に踏み込んだものはそれほど多くはないのが現状である。

2. 研究の目的

(1)『阿婆縛抄』の写本を総体的に把握することで、書写年・書写した人物・書写された場所といった書写と伝播の実態を明らかにする。

(2)中世の写本の存在調査を行い、現存する巻数とその内容を確認して、中世のテキストをもとにして、信頼できる、読みやすいテキストを提供する。

(3)『行用抄』というテキストについて、調査可能ものについて調査を行い、その性格を明らかにして、『阿婆縛抄』との近似を確認する。

(4)鎌倉時代の古記録を中心に修法記事を検索して、天台宗のみならず、鎌倉時代の仏教の修法記録について概観できるようにする。

3. 研究の方法

(1)『国書総目録』『昭和現存天台書籍総合目録』で所在の知られる『阿婆縛抄』全冊揃いのセットの写本について、大学・資料保存機関・寺院などに所蔵される『阿婆縛抄』の写本を調査し、その奥書から書写年・書写した人物・書写された場所を確認して写本の系統と書写活動について明らかにする。

(2)中世写本については、写真撮影が可能なものについては、写真撮影し、現在の活字本との校訂をおこない、信頼できるテキストをつくる。

(3)『行用抄』については、可能なかぎり調査をおこない、その本文を『阿婆縛抄』と比較して、書物としての性格を明らかにしていく。

(4)中世における修法の実態を明らかにするために、中世の古記録から修法の記事を検索し、修法名・実行の年月日・修法を行った僧侶名・修法目的・修法を行った場所をデータベース化する。このデータは将来、さらに充実させて公開に備える。

4. 研究成果

(1)『国書総目録』『昭和現存天台書籍総合目録』で所在の知られる『阿婆縛抄』の写本の調査を行い、その内容、奥書について調査を行った。その結果、近世写本が圧倒的に残っていることを再確認できた。近世写本については、代表者が従来より明らかにしてきた中世における書写のありかたとの違いが明らかとなった。それは、天台宗の僧侶のみならず、他宗（浄土宗）の僧侶による書写が認められること、浄土宗寺院（伝通院）でも書写されたことなども明らかとなった。中世のように特定の天台宗の法脈のみではなく、あるいはそれが近世的な書写といえると考えられる可能性がある。また、近世写本のなかには、『阿婆縛抄』とは内容的に異なるものが、混入しているセットの写本があり、それは天台宗の修法次第書である『行林抄』などであることが明らかとなった。さらに、これらの混入は、今回の写本調査から、江戸時代前期写された西教寺舜興蔵の写本にそれらが混入しており、他の写本の奥書に西教寺舜興蔵の写本を書写したことがみえることから、近世写本の多くが西教寺舜興蔵のものを書写した可能性が高いことが明らかとなった。

加えて、近世写本の奥書から、京都洛西金蔵寺・京都鞍馬寺・京都穴太寺や岐阜谷汲山華嚴寺といった天台宗寺院にも存在したことも明らかとなり、近世の『阿婆縛抄』写本の広がりについて明確となった。

(2)『阿婆縛抄』の中世写本については、従来は京都曼殊院本・滋賀成菩提院本・鎌倉宝戒寺本・叡山文庫（天海蔵本・真如蔵本）が知られるのみであった。そして中世写本は全冊揃っているものも伝わっていない。今回はこれらに加えて東寺・西教寺・叡山文庫法曼院蔵などにも存在し、計21本が新たに確認できた。また、これらの写本の内容を活字本と比較すれば、活字本、あるいは活字本のもととなった近世写本による誤りが訂正でき、より読みやすい本文が提供できる。なお、中世写本については、『阿婆縛抄』という書名ではなく、個々の仏菩薩の名の修法次第としても各地に伝存しており、これらの写本も調査することにより中世写本の点数はもう少し増加するだろうと考えられる。

(3)叡山文庫天海蔵『阿娑縛抄』の奥書については、『大正新脩大蔵経』図像部の底本となっているため活字でみることができる。また、以前に叡山文庫調査会『叡山文庫 天海蔵奥書集成』にも翻刻されているが、誤りもあり、情報が不足している部分もある。今回、叡山文庫天海蔵『阿娑縛抄』の奥書を現物をみて修正した。これについては別に刊行する報告書に掲載する。

(4)『行用抄』については、すでに愛知密蔵院の中世写本を数点検討していたが、今回、京都三千院本の調査を行ったことにより、『行用抄』23帖の内容が確認できた。三千院本の『行用抄』の内容は、『阿娑縛抄』の修法の次第とほぼ同内容で、『阿娑縛抄』の本文にある梵字を省略する程度の違いのみで、ほかはほぼ一致するものであることが明らかとなった。また、三千院には、『行用抄目録』も所蔵されており、これにより『行用抄』全体が想定できることとなった。また目録には書写奥書があり、これをみると『行用抄』が灌頂の際に授与されたこと、『阿娑縛抄』の中世における書写と同じ法脈で書写されたことが明らかとなり、両書が密接な関係と同様な性格をもつテキストであることも明らかとなった。しかし、滋賀成菩提院にも『行用抄』が多数所蔵されており、この内容についても、やはり『阿娑縛抄』と近似していることは確認しているため、今後さらに精読することで、中世天台宗の修法テキストとしての位置付けが明確になるものと予想される。また、今回の調査で、『諸尊行用』あるいは仏菩薩の名前を付した『行用』というテキストも確認したが、これらは先に記述した『行用抄』とはその記述形態や内容に違いがあるため、数種の『行用抄』テキストも今後は考えていかねばならない。

(5)鎌倉時代を中心とする古記録から、修法に関わる記事を検索して、修法データベースを作成した。はじめ平安時代からのものを計画したが、諸般の事情で鎌倉時代を中心とするものにとどめざるをえなくなった。しかしながら、修法名・修法に参加した僧侶・修法を行った場所・修法目的についてはほぼ網羅的なものを作成した。このような総合的なデータベースは管見のかぎりいまだ作成されていないと考えるが、本来は古記録本文も入力する予定であったが、それは完成しなかった。今後その作業を継続して部分的にでも公開をしたいと考えている。本文テキストについては、ファイルメーカーを使用して作成をした。このデータについては、別に刊行する報告書においてとりあえず公開することとした。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計5件)

①『『阿娑縛抄』の近世写本について一教学の流伝一』 文化環境学会 2011年3月 池坊短期大学

②「Doji-sin A Study of the view of God in Japanese Middle Age」(Combinatory Practices in Japan:Rethinking Religious Syncretism) 2011年2月 University of London

③『『阿娑縛抄』の近世写本について一教学の流伝一』 文化史学会 2010年12月 同志社大学

④「垂迹美術からみた中世の神祇観について」(中国社会科学院日本研究所国際シンポジウム) 2010年11月 中国社会科学院日本研究所(北京)

⑤「The Transcription and Propagation of Esoteric Tendai Texts」(XXth WORLD CONGRESS of the INTERNATIONAL ASSOCIATION for the HISTORY OF RELIGIONS) 2010年8月 UNIVERSITY OF TRONTO

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 公一 (MATSUMOTO KOICHI)

研究者番号：60442258

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：